



早いもので間もなく今年度が終了しますが、今年一年を皆さんはどのように過ごしたでしょうか。目標を見据え、その達成に向け邁進した生徒もいれば、妥協と言い訳で成果の振るわない一年を過ごした生徒もいることでしょう。ですが、時間は誰にも平等に流れており、皆さんの行動次第で良くも悪くも変わります。自分の将来を見据えてやるべきことを定める道しるべとなるよう、3学年の大きな進路スケジュールや注意点について紹介します。今後の希望進路実現へと役立ててください。

## ○3学年進路スケジュール

	就 職	公務員	進 学
6月		受験案内入手 出願開始	
7月	<b>★求人票公開開始</b> 応募前職場見学		入学者選抜実施要項 発表
8月	履歴書作成		総合型選抜 出願
9月	応募書類発送 <b>★入社試験(9/16~)</b>	<b>★1次試験</b>	大学入学共通テスト 出願
10月	内定通知	1次試験合格発表 <b>★2次試験</b>	<b>★総合型選抜 入試</b>
11月		2次試験合格発表	総合型選抜 合格発表 <b>★学校推薦型選抜 出願・入試</b> 学校推薦型選抜 合格発表
12月			
1月			<b>★大学入学共通テスト 入試</b> 私立大学 一般選抜 出願
2月			国公立大学 個別試験(2次試験) 出願 <b>★私立大学 一般選抜 入試</b> 私立大学 合格発表 <b>★国公立大学 前期試験 入試</b>
3月			国公立大学 前期合格発表 <b>★国公立大学 中・後期試験 入試</b> 国公立大学 中・後期合格発表

### 1. 就職～求人票公開開始と事前準備～

7月1日から求人票の情報公開が開始となりますが、試験までの猶予は2ヶ月程しかなく、履歴書等の書類作成や面接練習、試験科目の勉強とやることはとても多いです。求人票公開後に進路を決めては時間が足りないため、事前に前年度の求人票などを参考に候補を絞りましょう。ただ、「有名な企業だから」や「先生や家族に勧められた」など安易な気持ちで決めると、履歴書の志望理由や面接内容が支離滅裂になったり、入社後にミスマッチで早期退職に繋がりがやすくなったりします。自己分析と企業分析をしっかりと行い、自らの得手不得手と業務内容が噛み合う企業を選択することで、芯の通った志望理由や面接内容にできるため、しっかりと検討を重ねてください。加えて、SPIや一般常識の対策にも早期に取り組みしましょう。これらは多くの企業の試験科目で採用しており、早期に取り組むことで進路選択の幅を広められます。試験科目になくとも基礎学力の向上に役立ち無駄にはならないため、3学年の始めにはテキストを購入し、毎日少しずつでもいいので取り組んでいきましょう。

## 2. 公務員～勉強時間と2次試験不合格の場合～

まず「何となく公務員」という安易な考え方は捨ててください。東京アカデミー（予備校）によると、高卒程度区分で合格した受験生の勉強時間は合計500～800時間となっています。進度や基礎学力にもよりますが、1日2時間の勉強を1年間続ける計算になります。本校では公務員講習を行っていますが、それだけでは全く時間が足りません。予備校や参考書など使えるものは何でも活用して勉学を重ね、その積み重ねた時間がそのまま合格率に直結すると心得てください。また、職種によっては体力試験や実技試験もあるため、計画的な体力作りも必要です。試験内容を確認し、試験直前ではなく今の時期から対策していきましょう。

また、公務員試験の最終合格発表は11月末から12月に行われますが、12月には進学 of 総合型選抜や学校推薦型選抜の試験が終わっている学校も多く、不合格の場合の選択肢は多くありません。進学は一般選抜が主となり、就職は二次募集のみで希望する条件の就職先が残っているとは限りません。安易な公務員選択や途中での進路変更は進学・就職ともに大きな不利へと繋がります。2学年の内に本当に公務員を目指すのか、そして不合格時の進路先をどうするのかをよく考え、1年という期間を逆算して公務員試験の準備をしていきましょう。

## 3. 進学～各選抜方法の特徴～

選抜方法	特徴	このような生徒におすすめ
総合型選抜	<p>★大学が求める人材を選抜する方法で、大学で学びたいことや意欲、入学後及び将来の目標が重視される</p> <p>★試験内容は面接、小論文、口頭試問、プレゼン等、学校によって多岐にわたり、知識や思考力、表現力等の総合力を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験機会が増えるが一般試験対策と同時進行する必要がある</li> </ul> <p>★出願時期が早く、計画的に動く必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・併願ができない</li> </ul>	<p>★将来の目標に向けて大学で学びたいことを、根拠を持って説明できる</p> <p>★人前で話す力がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生から課外活動をしている</li> <li>・英検などの資格を持っている</li> <li>・計画的に行動できる</li> </ul>
学校推薦型選抜	<p>★高校での学習状況や課外活動など日頃の努力を評価する方法</p> <p>★受験条件：評定平均が基準を超え、学校長からの推薦を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験内容：面接、小論文、口頭試問等</li> <li>・併願ができない</li> </ul>	<p>★学校で高い成績を安定してとれる</p> <p>★部活動や課外活動で成果を上げている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の目標に向けて大学で学びたいことを、根拠を持って説明できる</li> </ul>
一般選抜	<p>★試験の点数のみで選抜する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の大学を受験できる</li> </ul>	<p>★学力試験に自信がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学でやりたいことを迷っている</li> <li>・人前で話すことが苦手</li> <li>・学校の成績が不安</li> </ul>

※課外活動の例…各種検定、ボランティア、地域貢献活動、小論文のコンテスト等

総合型選抜は大学で学びたい意欲が旺盛かつその内容が明確で、大学が求める人材と一致する人物を選抜する方式です。出願や試験の時期が早く、3年生になってから課外活動やオープンキャンパスに参加するのは難しいため、計画的に取り組むことが重要です。また、試験内容が多岐にわたり、口頭試問やプレゼンテーションなど、人前で話す力や考える力も求められます。不合格だった場合は一般選抜にシフトすることも考えられるため、総合型選抜と並行して一般選抜の準備も進める必要があるため、どの抜方法にも対応できるよう、早期から計画的に取り組ましましょう。

学校推薦型選抜では、3年生までの学業成績が評価される方式です。学校長の推薦が必要であり、評定基準や欠席日数、問題行動等の懲戒処分などにより、推薦を得られないこともあります。今後の学校生活への取り組みや成績、提出物にも気を配り、推薦に足る模範的な生徒を目指しましょう。

一般選抜は試験の点数で合否が決まる方式です。何をおいても点数がものを言うため、模試を活用して志望校での現在地や問題の得手不得手を把握し、対策を重ねることで1点でも多く点数を高めることが重要です。試験科目や学ぶべき内容は多岐に渡るため、公務員試験と同様に積み重ねた努力がそのまま結果に直結します。成績が短期間で劇的に向上することはないため、妥協せずに毎日時間や目標を定め、少しずつでも確実に学びを重ねてください。